

# “人間野球”の初心にかえり、 未来に向かって挑戦し続けたい

北海道日本ハムファイターズ

小谷野栄一

さん 創価大学法学部卒業

創価大学は開学以来「学生のための大学」「社会に貢献する大学」を掲げ、真のヒューマニズム教育に力を入れ「創造的人間」を育成。卒業生は、法曹界・経済界・教育界をはじめスポーツ・芸能界など、さまざまな分野で、幅広く活躍しています。



2007年5月3日、ロッテ戦での復活の一打

さまざまな分野で活躍する創価大の卒業生たち。スポーツ界で躍進する卒業生も少なくない。北海道日本ハムファイターズの小谷野栄一内野手もその一人だ。二〇〇八年のシリーズでは、六〇打点を上げ、特に西武戦では打率三割、得点圏打率五割と目覚ましい活躍にファンの期待も高まり、チャンスに強い打撃をアピール。守備でも数々の好プレーを見せ、ファイターズでは、なくてはならない存在感を示した。

「一番印象に残った試合といえば、やはり一号ホームランを打った七月二十二日のロッテ戦ですね。打った瞬間、ああ、自分はまだまだやれるとプレーができる喜びが体の奥から湧いてくるような気がしました」

小谷野選手がこう語るのにはわけがある。小谷野選手は、少年時代からリトルリーグに

こやの・えいいち／一九八〇年東京生まれ。創価高校から創価大に進み、二〇〇三年、日本ハムに入団。〇五年、一軍に昇格。〇七年、不振を克服し、一軍に復帰。三塁手一塁手、外野手として活躍。礼儀正しく、人一倍の努力家として知られ、梨田監督には「ひたむきに一生懸命というところがいい」と評される。

所属。野球を続けたくて創価高校に入学、高二の春には念願の甲子園に出場した。その後、創価大に進んで野球部の中心的な存在となり、二〇〇二年、ドラフトで日本ハムの指名を受け入団。プロ入り三

年目で一軍に昇格したものの、翌二〇〇六年、けがによる成績不振などから練習もままならない状態に陥った。「あの一年は本当につらかったです。ところが

年が明けて、最初の自主トレは母校ですというのが僕らOBの伝統なんです。三日にトレニングセンターで練習をしていたときのことです。突然、創立者が来られたんです。そして、僕らの手を一人ひとり握って、『今を大切に』と温かく励ましてくださいました。その言葉を聞いて、今、自分にできることを精一杯やろうという気持ち

になりました」

他人と比べることはない。野球が好きだという初心にかえて、もう一度がんばろうと思ったという。その年、小谷野選手はみごと一軍復帰を果たした。五月三日のロッテ戦では豪快な二ランホームランでチームを勝利に導いた。「二〇〇八年も開幕当初はけがなどもありましたが、自分としては納得のいく成績を残すことができました。創価大学野球部は、“人間野球”がモットーです。心の成長、人間としての成長が何より大切だと教わったのが創価大学です。これからも創価の精神を大切に、後に続く後輩のためにも、また、応援してください。今年には持ち前の勝負強さを発揮して、より一層の活躍が期待できそうだ。」

Koyano Eiichi



創価大学の創立者池田大作先生は、世界の平和と人権、環境を守るため、世界各国のリーダーや学識者たちと対話を重ねてきた。2005年には、ケニアの環境活動家でノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイ博士と会見（写

真）。「環境教育は人類を守る砦」と語る創立者に対し、マータイ博士は「生命を大切にす池田先生の価値観をアフリカにも広めたい」と語った。06年には創価大で「地球環境のために今できること」と題し、記念講演を行った。